



# 福山平成大学

## FDニューズレター No.5



平成 21 年 3 月 25 日発行  
 福山平成大学  
 FD 推進委員会  
 FD ニューズレター  
 編集部 編集

### ◆FD講習会：『統計講座』が開催される！！

平成 20 年 8 月 1、2 日の両日、福井経営学部教授によるFD講習会「統計講座」が本学コンピュータ教室で開催された。FD講習会は、教員の資質向上を目指し、随時実施する取り組み。今回は研究手法として有力な統計処理の理論と実践がテーマ。看護学部の教員を中心に 8 名の参加があり、データの処理、統計的検定の手法などが演習形式で実施された。



### ◆第 1 回FD研修会：『FD合宿研修って何をするの？』

平成 20 年 10 月 30 日 14 時 40 分より約 1 時間、『第 1 回FD研修会』が大会議室で開催され、43 名の教員が参加した。

今回は、三好FD推進委員長が講師役を務め、福山大学と合同で行っている『FD合宿研修ワークショップ』の概要と、そこでの研修テーマである「カリキュラム・プランニング」の中から「学習目標」というセッションの概略が説明された。その内容は次の通り。

このワークショップは、「教育を『学習者の行動（知識・技能・態度）に価値ある変化をもたらすこと』とし、そのために必要なカリキュラムを作りあげていく手法を体得する」ことを目的に、1泊2日の合宿形式で実施されている（2009 年第 5 回研修から宿泊なし）。



研修は、全国薬学教育者ワークショップで行われている研修スタイルに基づき、カリキュラム・プランニングや大学教育の問題点に関して 6 つのセッションに分けられ、各セッションごとにグループによる討議や成果物の作成、および全体討議が繰り返される。

カリキュラム・プランニングに関していえば、カリキュラムとは教育活動計画書のことで、「学習目標、方略、評価」の 3 要素からなり、これにより学習者はある特定の目標に到達するための学習が可能となる。

このうち学習目標は、まず大きな一般目標と、それを実現するための観察可能な具体的な行動目標から構成される。一般目標とは、何のために、どのような能力を修得するかを包括的に示したもので、学習者を主語にした文章で示される。内容としては、知識、技能、態度・習慣の 3 領域にわたることが望ましい。

行動目標とは、学習者が一般目標を達成したというときに、何ができるようになっているのかを具体的に示したもので、一つの一般目標に数個から十数個の行動目標が設定される。

例えば「スーパー主婦（婦）養成学科 料理コース」の場合、以下のような目標が考えられる。

☆一般目標

「学習者が、日常の食卓を豊かにするための知識と技能や態度を修得する」

☆行動目標は

- ① レシピを 30 個列挙できる（知識）
- ② 大根のかつらむきができる（技能）
- ③ 糠床を毎日かき混ぜる（態度）
- ④ ぱらぱらのチャーハンを作ることができる（技能）
- ⑤ メタボ気味の家族の健康に、配慮する（態度）・・・

\*以上、一部抜粋

## マーケティングを講義して

経営学部 田村 直樹

### 学生の関心を惹く

私の担当科目はマーケティングです。これは、企業が顧客を獲得していく活動全般を取り扱うこととなります。たとえば、あるシャンプーが売れるためには、製品の品質を良くしたり、全国の小売店に販路を拡大したり、お客さんの買いやすい値段設定をしたり、人気タレントを起用した広告を作ったりします。

こうした学問は、実際のビジネスのことを扱いますので、学生たちにとって大変役立つ学問だといえます。しかしながら、学生にしてみれば、社会のことはさておき、まず関心があるのは学生の世界に他なりません。バイトや友人関係、マンガ、テレビドラマやお笑い番組、といったことが彼らの現在を構成している世界なので、実社会が別世界というところでしょうか。授業の中身には関心のない学生が多いのも事実でしょう。

そうした学生の関心を惹くためには、身近な話題をたくさん用意しておかないといけません。また、どんな話に関心を示すのかは現場で立ってみないとわかりません。話してみても面白くなさそうな話題は、すぐに引っ込めて話題を変えることもあります。教室の状況は生き物なので、予定通りに進むとは限りません。これが、一番の苦労するところでもあります。



### 授業に出席する目的は？

その他、授業で苦心することとしては、出席に関することです。本学の規定では、15回の講義回数<sup>2</sup>の2/3以上の出席回数を満たさないと、学生は定期試験の受験資格を失います。つまり、5回までなら欠席してもいいのですが、6回ですと失格となります。学生のなかには、5回分をきっちり欠席する者もいます。

こうなりますと、講義ノートは不十分になってしまいますので、試験にノートを持ち込みにさせても合格点に満たないことになりかねません。単に出席回数をクリアさえすれば、試験は受かるであろうという意識が多く<sup>3</sup>の学生に見受けられます。そのあたりは、私ひとりの問題ではなく、学科をあげて取り組む問題なのかもしれません。

いずれにしても、学生にとっては必要単位さえ手に入れられたらいいのであって、講義の内容にはほとんど関心がなく、成績は60点で合格さえすればいい、という学生が大半を占めているように思います。つまり、単位を収集することが目的となり、講義内容の理解は二の次ということです。

次年度は、これらの反省を活かしてなんとか授業改善を進めていけたらと思います。

## マーケティングは面白い！

経営学部 尾崎 誠

### 自分で考えさせる

マーケティングは学生皆さんの生活に密着しているため、学生も非常に興味を持って講義に接している。

モノを売るためには何が必要か？ ではなく、どうしてそれを自分は買っているのか？ と、学生自身にまずは考えさせている。そして、きちんと受講者全員が自分の考えを持てるように、学生の様子を良く見ながら適宜当てて発言させるようにされてました。

また、身近な実例を挙げてわかりやすく解説することで、学生だけでなく私のような専門外の者でも理解しやすいように工夫されてました。私が参観した時には、一番身近であろう、カルビーを取り上げてマーケティングについて解説されてました。

### 講義にもマーケティング！？



今回参観させて頂いて改めて考えさせられたのは、講義もサービス業の一種であるから、マーケティングの考えが大切であるということです。

講義を学生に対してどのように売り込むのかということが大事であると 痛感させられました。

どんなに良い講義内容であっても、それが学生に売り込めなければ講義の質の低下に繋がってしまう。そんな当たり前の事を講義の際に念頭においているか？ 講義の質が低下しているのを学生のせいにしてはいないか？ などと非常に考えさせられました。

### 学生のペースに合わせる

田村先生は講義中に良く学生に問いかけていましたが、その際になかなか発言できない場合にも急かしたりする事なく、学生から発言できるように誘導しておられました。

なかなか発言できない場合には、別の学生を指名したりする事が多くなりがちですが、講義が中断してもその学生自身から発言が出てくるように促しておられました。

講義の進行上、あまり中断してしまうのは望ましくないのですが、田村先生はなるべく学生のペースに合わせて学生から講義に参加できるように心がけておられてとても感心致しました。

最後に、田村先生の講義を参観させて頂いて学んだ事を、今後の講義に活かしていきたいと思えます。また、そのような機会を与えて下さった田村先生、FD 推進委員会の皆様にも感謝致します。

## マルチメディアは避けて通れない! ?

経営学部 尾崎 誠

### 生活の中のマルチメディア

私たちの生活は、朝から晩までマルチメディアと切り離せないものとなっている。テレビ、新聞、雑誌といった既存のメディアの多くが、マルチメディアとの連携を強めており、既存のメディア自体その内部処理にマルチメディア処理を大幅に取り入れている。また、そのコンテンツの一部を、インターネットでWWWの形で公開もしている。

教育機関においても、ビデオやパソコンを導入し、インターネットへアクセスすることを授業に取り入れるケースが多くなってきた。

このように、生活だけではなく教育上においてもマルチメディアが切り離せないものとなってきています。



### コミュニケーションとメディア

コミュニケーションは、人間対人間、あるいはその間にコンピュータが介在することにより行われる。メディアは情報を記録、伝達、保管するための媒体であり、様々なメディアが存在する。コンピュータの進化にともない、メディアの種類も大幅に増え、また複数のメディアを取り扱うマルチメディアの取り扱いも容易となった。

そのため、コミュニケーションにおいて我々は様々なメディアの中から必要に応じて選択する事が可能となった。

しかし、それぞれのメディアには得手不得手があり、正しいメディアを選択しないとコミュニケーションは成立しない。また、正しいメディアを選択したとしても、情報発信者と受信者の背景となる共通の基盤に配慮し、意味の共有が行われなければコミュニケーションは成立しない。

そのため、講義では各メディアの特性や取り扱い方、またコミュニケーションの成立のために必要なことに関して多くの時間を割いて説明するようにしている。

### マルチメディアは社会の窓口

従来、メディアといえばマスメディアを指すことが多かった。しかし、マルチメディアの浸透により、インターネットのWWWのように、エンドユーザでも少ない投資で扱え、それにより全世界に向かって情報発信することが可能となった。また逆に、全世界から自分の求める情報を探し出してくることも可能である。

一方、新しいメディアにはマイナス面も多く存在する。旧来のメディアにもそれは存在するが、メディアが社会に根付くなかで、問題が少しずつ解決されてきた。

新しいメディアを取り扱う上で、問題意識を持ち、合理的に操作することが大切なため、講義の中でその点にも重点をおいて十分に理解してもらえるようにしています。

## 授業アシスタントの必要性

経営学部 田村 直樹

### コンピューター室での授業の苦勞

尾崎先生はコンピューター室で授業を行っています。この科目で、もし自分であればきっと困難に直面するだろうと感じたことがあります。それは、学生が授業を聞いているのか、パソコンを見るふりをして、別のことを考えているのか、区別がつかないということです。講師側からは、学生の顔が画面のかげに隠れてしまい、彼らの表情を読み取ることが難しくなります。

したがって、この問題には、授業アシスタント（ゼミ生等）をつけて、学生の進捗状況をフォローしながら授業を進めることが必要だと感じました。つまり、フィードバック機能を作動させる、リアルタイムのチェック機能ということです。そうしなければ、講師から学生への一方通行の講義で終わってしまう恐れがあると感じました。尾崎先生は、そうしたご苦勞をなんとかしながら、学生にわかりやすい例をとりあげて授業されていたのが印象的でありました。

### 講義か、演習か？



尾崎先生ご本人もお話されていましたが、授業が講義か演習のどちらのスタイルなのか、中途半端になるとのことでした。確かに、コンピューターを操作しながらの科目ですので、演習にはぴったりの環境です。しかしながら、履修されている学生の専門性にバラツキがあるので、全員で同じ課題を演習されることが不可能になります。なかには他学科の学生も履修しているので、そうなると、ある程度講義形式にならざるを得ません。これでは、せっかくのコンピューター室という環境を活かすことができないこととなります。

こうした、学生側の習熟度のバラツキによって、授業の組み立てが困難なケースがかなりあるように思えます。例えば、英語などの全員必修科目などでは、学生の習熟度の違いから、習熟度の高い学生には物足らず、低い学生はついていけないという現象がおこります。このような、語学やパソコン操作といった、知識や技術が直線的に積みあがっていくような科目は、学生側のバラツキを改善しないと講義がうまく成立しない可能性があると思われます。

以上の問題に関しては、ひとつは習熟度別のクラスを設置することが考えられます。実際に、英語科目では試験的に次年度からそういった取り組みが始まると聞いています。しかしながら、別クラスを設けるほど規模が大きい科目では、学生のバラツキを前提にした改善が要求されることとなります。この場合、やはり授業アシスタントの存在が意味を持ってくるのだと思います。アシスタントが1人でもいれば、習熟度を二分して平行に授業を進めることの可能性が開かれるのだと思います。

# 平成 20 年度後期

## 学生への授業アンケート調査について（速報）

### 1. 調査概要

	平成 20 年度 後期
実施期間	平成 21 年 1/19 ～ 1/30
対象科目	演習・実習等の科目を除く、全 245 科目 (受講数 5 名未満の科目は含まず)
実施方法	科目担当教員が、授業時間中にアンケート用紙の配布、回収を行う
質問項目	下記の通り
実施科目数 (率)	210 科目 (85.7%)

### ◆質問項目

Q 1.	シラバス（授業概要）は、この授業の履修の決定や学習に役立った
Q 2.	受講にあたって、学習到達目標や注意事項などの説明・指導は、適切だった
Q 3.	この授業の進度は、適切だった
Q 4.	教員の話し方は、聞き取りやすかった
Q 5.	板書や視聴覚機器は、見やすかった（聞きやすかった）
Q 6.	教員の説明・指導は、わかりやすかった
Q 7.	教室や実習・実技の環境・設備などは、適切だった
Q 8.	この授業は、有意義だった
Q 9.	この授業にきちんと出席した
Q 10.	受講マナー（遅刻・早退、私語など）は守れた
Q 11.	予習・復習・課題提出など、この授業に熱心に取り組んだ

### 《補足説明》

- 1) 上記質問項目は、平成 20 年度前期調査と同じ内容
- 2) 上記質問について、「5. よくあてはまる ～ 1. 全くあてはまらない」の 5 段階評価を、マークシート方式によって回答してもらう
- 3) その他、担当者の自由設問及び、自由記述欄あり

## 2. 大学全体の結果

### ◆前回：平成20年度前期の回答総数と平均値

	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2. あまりあてはまらない	1. 全くあてはまらない	未回答	平均値
Q1	2228	2114	2596	429	324	19	3.71
Q2	2578	2691	1942	308	172	19	3.94
Q3	2896	2583	1668	372	164	27	4.00
Q4	3046	2345	1554	494	248	23	3.97
Q5	2710	2254	1805	611	306	24	3.84
Q6	2889	2363	1715	474	239	30	3.94
Q7	2915	2536	1797	289	144	29	4.01
Q8	3004	2240	1750	406	257	53	3.96
Q9	4742	1758	906	211	50	43	4.43
Q10	4089	2099	1193	219	62	48	4.30
Q11	2668	1986	2198	473	332	53	3.81

### ◆今回：平成20年度後期の回答数と平均値

	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2. あまりあてはまらない	1. 全くあてはまらない	未回答	平均値
Q1	2296	1806	1867	221	210	5	3.90***
Q2	2677	2117	1326	197	81	7	4.11***
Q3	2826	2083	1184	218	88	6	4.15***
Q4	2956	1926	1118	267	131	7	4.14***
Q5	2736	1917	1281	332	134	5	4.06***
Q6	2822	2006	1174	269	123	11	4.12***
Q7	2894	2045	1233	155	68	10	4.18***
Q8	2975	1860	1185	234	127	24	4.15***
Q9	3771	1537	805	166	58	68	4.39**
Q10	3409	1722	954	199	56	65	4.30
Q11	2642	1637	1602	289	165	70	3.99***

有意水準＝「\*\*\*：0.1%」、「\*\*：0.5%」

## 3. 寸評

先ごろ後期授業アンケート結果の集計が完了したので、大学全体の数値を速報として掲載する。後期の結果は、上記の通り平均点が5点満点中4点以上、ないしはそれに近い数値である。しかも、同様の質問をした前期との比較においても、およそ0.15～0.2ポイント程度上昇している（統計的にも高い有意水準をクリアー[統計分析協力：福井委員]）。しかし、例えばQ7の設備状況は大きく変化していないと思われるのに、同じように数値が上がっていることから見ても、その結果の中身を詳しく吟味する必要はある。

（委員長 三好 宏）

《平成 20 年度》

- 平成 20 年 5 月 20 日 平成 20 年度 第 1 回委員会  
議題 1) 平成 20 年度活動予定について  
2) 前期授業アンケートについて  
3) その他
- 2008 年版 学生写真台帳 C D を全教員に配布 (貸与)
- 7 月 7 ~ 23 日 学生への授業アンケート調査 (前期)
- 7 月 8 日 平成 20 年度 第 2 回委員会  
議題 1) F D 合宿参加者選考について  
2) その他
- 8 月 1 ~ 2 日 F D 講習会 「統計講座」 担当 : 福井正康 (経営学科)
- 8 月 20 ~ 21 日 第 4 回 福山大学・福山平成大学 F D 合宿研修ワークショップ  
(於 : 尾道ふれあいの里)  
参加者 門田 清 (経営学科)  
松本 智津 (看護学科)  
大中 章、芝崎 良典 (以上、F D 推進委員)
- 10 月 30 日 第 1 回 F D 研修会 「F D 合宿研修って何をするの？」  
担当 : 三好宏 (F D 推進委員長)
- 平成 21 年 1 月 19 ~ 30 日 学生への授業アンケート調査 (後期)
- 3 月 5 ~ 6 日 第 5 回 福山大学・福山平成大学 F D 研修ワークショップ  
(於 : 宮地茂記念館)  
参加者 村社隆、福井正康、佐藤真司、芝田全弘 (以上、経営学  
科)、永井純子 (こども学科)、近藤良樹、梶原京子 (以  
上、健康スポーツ科学科)、木宮高代 (看護学科)  
運営スタッフ 三好宏、大中章、芝崎良典 (以上 F D 推進委員)
- 3 月 17 日 第 4 回 私の授業発表会  
発表者 (1) 授業報告 田村 直樹  
参観報告 尾崎 誠  
(2) 授業報告 尾崎 誠  
授業報告 田村 直樹

編集後記

平成 20 年度もいよいよ終わりにになりました。今年度に入り、ようやく福山大学との合同の F D 研修ワークショップ、私の授業発表会、授業アンケートなどを全学的な取り組みとして位置づけることができたのではないかと考えています。これもひとえに教職員の皆様のご協力の賜物と、厚く感謝いたします。来年度はメンバーが一新されると思いますが、委員一同更なる F D 活動推進に向け努力してまいりますので、これまで以上のご支援をなにとぞよろしく願いいたします。(H. M)